

B-18 古代織物の研究 中国古代麻織物の復元と性能評価

大阪市大生沼科学の広田輝次

和歌山信愛女子短大 吉村正明

目的、古代中国の西周時代(BC1100~700)に用いられたと推定される、青銅器^鼎の外周部に錯着した織物の断片をしらべ、その織物構造を明らかにしたので、これにもとずきそれと類似した麻織物を製作してその実用性能の評価を行った。

方法と結果、古代麻織物の性質は表1のようであった。また繊維の電子顕微鏡写真は図1のようである。

表 1

	平均糸の太さ	撚り方向	平均糸の撚り数	平均糸密度
たて方向	0.77 (μmm)	S.	2.8 (回/cm)	11.9 (本/mm)
よこ方向	0.69	S.	2.8	8.5



図1
単位10μ

繊維は苧麻であると考えられるので近似した太さおよびより数のラミー糸を用いて、手織機によって原布に近い構造をもつ布の復元を試みた。これによって明らかにされた点をあける。1) 復元した織物の性質は衣料用布としては粗硬で、インテリアまたは器具の被覆用として作られたものと考えられる。2) 織密度はかなり高く、糸を水中に浸漬し湿润状態で製織してこれに近いものとする事ができた。全般的にみる中国古代における製織技術はかなり高いものであったことがわかった。

古代麻織物の調査に多大の御便宜をいただいた藤井有鄰館、ご指導いただいた同館理事藤井守一先生、また試料糸の提供をいただいた帝國纖維株式会社に感謝いたします。